

指導教員名	関 和俊、山本 隼年
-------	------------

活動区分	イベント企画型	連携先	企業

～ あなたのスポーツパフォーマンス能力は!? -プロラグビー選手と比べてみましょう- ～

活動の様子



イベントの様子①:受付



イベントの様子②:タッチスピード測定



イベントの様子③:投球スピード測定



イベントの様子⑥:立ち幅跳び測定

企画・活動概要

プロラグビー選手のスポーツパフォーマンス能力を身近に感じていただくイベントとして、プロラグビー選手とラグビー観戦者の体力の比較を行った。プロラグビー試合当日、イベントブースに体力測定場所を設置、観戦者に体力測定を実施し、プロラグビー選手との比較を実施した(2日間(2025年12月21日、2026年1月17日))。



イベントの様子④:握力測定

取り組む課題

- ① 人間健康学科で学んだ体力(・スポーツパフォーマンス)測定の実践とその評価
- ② コミュニケーション技法の実践演習
- ③ イベントの計画立案・運営

本学(学生)の役割

- ① プロラグビー選手の体力(・スポーツパフォーマンス)測定・データ入力・ランキング表の作成
- ② 試合当日の測定ブースの設置・片付け
- ③ 試合観戦者(年齢問わず)の体力(・スポーツパフォーマンス)測定・評価



イベントの様子⑦:測定結果のフィードバック(1)

経緯・背景・目的

本学は、2023年度よりNTTDコモレッドハリケーンズ大阪と連携協定を締結している。その連携協定の一環として、ホームゲームで催されているイベントの1つとして、試合観戦者の体力測定会を実施した。体力測定の項目は、握力、タッチスピード、全身反応時間、立ち幅跳び、ラグビーボールの投球スピードとした。また、試合観戦者の体力測定を行うだけではなく、プロラグビー選手と比較することで、選手をより身近に感じてもらうイベントを実施した。



イベントの様子⑤:全身反応時間測定

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

- ① 指導能力:他者への声のかけ方や間の取り方等々、説明能力を養うことができた。
- ② コミュニケーション能力:幅広い年齢層やグループ参加など、様々な対応があったため、臨機応変に対応する力を身につけることができた。
- ③ 運営能力:測定会を円滑に進めるためにも、運営(学生自身)側の連携が必要であったことから、学生同士の協調性を高めることができた。



イベントの様子⑧:測定結果のフィードバック(2)

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

人間社会学部
人間健康学科
教授、准教授
関 和俊、山本 隼年(セキ カストシ、ヤマモト ハヤト)

<専門・担当科目等>
専門:運動生理学、トレーニング科学
担当科目:健康運動科学理論・実習、トレーニング科学理論・実習

<関係者・企業等>

レッドハリケーンズ大阪

大阪府大阪市をホストエリアとしてJAPAN RUGBY LEAGUE ONEに所属しているラグビーチーム